

令和4年度 赤ちゃんから学ぶ講座 実施報告書

(赤ちゃん和小学生のふれあい体験事業)

知多市児童センター

1. 事業目的

本事業は、小学校6年生を対象に実際の赤ちゃんとのふれあう中で、赤ちゃんの成長過程と親とのかかわり、子育ての大変さと成長の喜び、大切に扱われている命について改めて感じ、そこから親、家族、そして自分を取り巻く周りの人の思いや、すべての命の大切さについて考える機会とします。

なお本事業は、国が乳幼児とのふれあう取り組みを児童館の取り組みとして位置づけており、市でも『第2期知多市子ども・子育て支援事業計画』の施策として実施しています。

小学生	親子とのふれあいを通し、赤ちゃんの愛らしさや温かさ、子育ての喜びや大変さ、親への感謝の気持ち、家族との絆の大切さ、また、命の大切さを感じる機会とします。
親	赤ちゃん和小学生とのかかわる姿を通して、わが子への愛情を再確認するとともに、自分の子どもの成長や将来をイメージします。 事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援する、という社会参加、社会貢献に繋がっていると感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高めます。

2. 実施校・開催日時等

実施校	日程	クラス(人数)	親子
旭東小学校	6月15日(水)	1(28)	8組17人
南粕谷小学校	6月22日(水)	1(35)	8組16人
岡田小学校	7月6日(水) 7(木) 8(金)	3(86)	21組44人
八幡小学校	7月12日(火) 13(水) 14(木)	3(115)	30組64人
つつじが丘小学校	11月1日(火) 2(水)	2(44)	17組38人
旭北小学校	11月16日(水) 17(木) 18(金) 24(木)	4(119)	38組77人
旭南小学校	12月1日(木) 2(金)		
新田小学校	12月14日(水) 15(木) 16(金)	3(106)	30組65人

*旭南小学校：コロナウイルス感染症拡大予防の為中止

3. 内 容

- (1) 体験の目的や、ふれあい時の注意事項・赤ちゃんの発達についてパワーポイントを使って話を聞く。

新生児人形を抱っこすることで赤ちゃんの重さや未熟さを体感し、命と真剣に向き合えるような動機付けを行う。また、体験前に赤ちゃんとやってみたいことやお母さんに聞いてみたいことを事前質問用紙に記入し体験に臨む。



- (2) ふれあい体験

1 クラス全員で実施

- ・親子と小学生のペアを作り、入室後自己紹介をする。
- ・ペアの赤ちゃんと一緒に遊ぶ（自由遊び）。
- ・遊びの中で考えた質問をする。
- ・手遊び、大布あそびで一緒に遊ぶ（ふれあい遊び）。



1 クラスを A・B の 2 グループに分けて交代で実施

A ふれあい体験

B 疑似体験

・『親と子の愛着』についての DVD を視聴し、赤ちゃんの発達過程とその時期の親のかかわりについて知り、自分の幼少期を思い浮かべる。

・赤ちゃん人形を使って疑似体験をする。

3kg の人形を抱っこして赤ちゃんの重さ（命の重さ）を実感する。抱くときには首が不安定なため支えながらの抱っこが必要で大切に扱わないと赤ちゃんの命の危機につながるなど、命の大切さを実感する。

・おむつ交換の体験をする。



(3) 感想記入

・親が感想を記入している間、小学生が赤ちゃんと遊ぶ（リズム遊び）。

・小学生が親に感謝の気持ちを伝える。



(4) ふれあい体験終了

(5) 児童センターより

・親からの感想・ひとことメッセージを模造紙に貼り後日各学校へ届ける。

4. 保護者からの感想 (抜粋)

参加した感想

- ・大きいお兄さんお姉さんとふれあう機会は多くないので、とても貴重な経験となりました。一生懸命に遊んでくれる姿にとっても頼もしく感じ、兄弟がいるという事は良い事だろうなと想像できました。
- ・大勢に囲まれると苦手なので少人数でのふれあいで良かったです。小学校の中に入る事はなかなかないので良かったです。
- ・楽しかった！ 6年生になるとこんなに大きく発言もしっかりするのかあと自分の子の成長も楽しみにになりました。自分の母校で体験でき、リラックスして参加できました。

生徒への感想

- ・笑顔で子どもたちと接してくれて嬉しかったです。一緒に遊んでもらえる経験ができて良かったです。また、気分屋の兄にも付き合ってくれて動き回る弟を追いかけてくれて、二人とも満足でした。やさしくしてくれてありがとうございました。
- ・温かく見守って優しく声を掛けてくれ、娘も安心して遊んでいました。ありがとう。
『大変な事がありますか？』と質問してくれたので、ぜひ自分のお家の方にも聞いてみてね。とても優しいお姉さん達に感謝です！！
- ・この経験は今後自分の将来の夢を考えるヒントになると思います。
それが「子どもはやっぱり苦手」でも良いし「かわいくて保育士になりたいと思った」でも良いです。+でも-でも感じる事が大切です。これからも多くの体験（ボランティアなど）、そして勉学を続けてください。今日はありがとう。

5. まとめ

2年ぶりのふれあい体験を実施しました。親子の募集が集まるのかどうか不安もありましたが、予想外にたくさんの募集があり、人とのふれあいを求めていることを強く感じました。

6年生の人数によって1クラス全員でふれあい体験をする学校と、1クラスを前半と後半2グループに分けてふれあい体験と疑似体験を交互に行う学校になりました。

ふれあい体験を通して小学生は赤ちゃんの愛らしさを実感し自然に笑顔になったり、小さな命を思いやりかわる姿が見られました。また、参加保護者から子育ての大変さを見たり聞いたりすることで、自分もこんな風に大切に育てられたのかなと想像し、家族への感謝の気持ちや命の大切さを学ぶ機会となりました。参加した保護者は、小学生の姿にわが子の成長を重ね楽しみにする姿や質問の一つひとつ答えることで自分の子育てを振り返り、わが子への愛情を再確認する機会となりました。また、小学校での講座に参加するという社会参加は保護者自身の評価や自己肯定感に繋がる貴重な経験を積むことができたと思います。